

多様な学びの場づくりを探る講座（全3回）実施報告書

【第1回】多様な学びの場がなぜ必要か

- 1 開催日時：令和5年11月26日(日) 13:30～15:30
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）青森県スクールソーシャルワーカー 金澤 拓紀 氏
- 4 参加者 30名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話
 - ③グループワーク「不登校対策をめぐる現状と課題—学校内/学校外」
 - ④全体でのシェアリング、ふりかえり

【第2回】夜間中学設置の動向/フリースクール等の状況

- 1 開催日時：令和5年12月17日(日) 13:30～15:30
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）「ちいさな学校」代表 三國 清志 氏
- 4 参加者 30名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話「フリースクールの現状と課題」
 - ③グループワーク、質疑応答
 - ④夜間中学校と教育を語る会事務局のお話「夜間中学の現状」
 - ⑤グループワーク、質疑応答
 - ⑥全体でのシェアリング、ふりかえり

【第3回】本県の現状に即した多様な学びの場づくりとは

- 1 開催日時：令和5年12月24日(日) 13:30～15:30
- 2 開催場所：青森県総合社会教育センター 第2教材開発室
- 3 講師（ゲストスピーカー）青森県議会議員 小笠原 大佑 氏
- 4 参加者 34名
- 5 主な内容
 - ①オリエンテーション
 - ②ゲストスピーカーのお話「本県の状況に即した多様な学びの場づくりとは」
 - ③グループワーク（問題分析・目的分析）
 - ④全体でのシェアリング、ふりかえり

アンケートより（抜粋）

◆本講座に参加したきっかけ

- ・いま、現在は大学3年生が小学校のころ、学校に行きたくないと言われ、支援学校には楽しく通ってくれました。それぞれ学び方がちがってもいいのかなと思っています！ 多様な学びの場づくりを探るそのことばにひかれて講座申込みしました。
- ・自分の子どもが学校に通っている時から、学校の苦しさ、通っている子の辛さを感じつつ、共に学校の先生をしている友達も多いので、先生がすごくがんばっているのもわかる、でも現場が辛いて所に子どもたちのしんどさも感じてたりもあると思うので、何かどーにかならんのか！といつも思っているから来ました。
- ・自校でも不登校や不登校傾向の生徒が数名おり、教室復帰を目指して支援しているが、教室復帰できる生徒は半分に満たない状態です。小中学校では、様々な取り組みをしている中、高校では何かできることはないのか考えたく、参加しました。
- ・学校現場で不登校の子どもたちを見てきて、なかなか状況が改善しない現状に対し、何をすべきか、何ができるかということを探したくて参加しました。また、現在、社会教育に関わるようになり学校と社会を結ぶヒント、手がかりを得たくて参加しました。
- ・“教育”の枠だけではいろいろなことが難しい（限界）と感じ始めています。「学校」以外の場をどうやって作るのか・作ればよいのか、また実際どのような場があるのかを知りたいと思いました。
- ・大学のゼミで社会教育を勉強していて、卒論テーマとして夜間中学に興味を持っているから。
- ・教員です。不登校の子たち、その家族と関わっていますが、学校に来られなくても、どこかでだれかとつながっていることが大切だと考えています。どんなところとつながればよいのか、その情報を得たくて参加しています。実際フリースクールに関しては知らない情報もあったので、私たちも自ら情報を得に行くことも大事だと感じています。
- ・不登校をはじめ、生きづらさを抱える子どもたちが安全安心していただける場所、そして学びの場所が増えていったらいい、増やしたいという思いから参加しました。

◆講座について

- ・今まで知らないいろんな情報を知ることができた。県内の様々な現状に今後具体的にどのように動けばよいのか考えなければならぬと感じた。やはり「教育」だけではどうにもならないと思った。（けど、教育の中でまず“昔の考え方”の人たちの意識を変えていかなくてはならないと思う）【第1回】
- ・グループ内での協議で、職種の違う人たちとの意見交換がとても有意義でした。金澤先生とお話が、わかりやすくよかったです。北斗のサタデースクールをこれからも続けてほしいです。不登校で悩んでいる親子だけでなく、一般市民にもPRしてほしいです。青森にいと感じなかったが、「学びの多様化」これからの課題になるのでしょうか。教育現場での問題点とか色々なことが話し合え、また、グループ毎の発表が聞けて勉強になりました。【第1回】
- ・知識としては知っている部分が多かったですが、グループで話し合うことで、自分の思いや考えが明らかになったり、他の方々と共有できてとても楽しかったです。【第1回】
- ・青森で数少ないフリースクールの活動をされている方のお話をお聞きすることができたので貴重でした。資料中の「不登校という言葉が死語になる社会」は全くその通りです。不登校、夜間中学、フリ

- ースクール、言葉のイメージによって、社会の圧力が強まっているとも感じます。【第2回】
- ・義務教育の未修了者の多さに驚きました。現状を正しく知ることは大事だと思いつつ、「それからどう行動するか」まで考えていくことが重要だと思いました。【第2回】
- ・学校で勤務していても、フリースクールや夜間中学のことはほとんど知りませんでした。多様な子どもたちには多様な学びの場が必要だと改めて感じました。多様な学びの場をつくるため、私自身は何ができるのか、考えていきたいと思います。【第2回】
- ・青森市内や県内のフリースクールや学びに関する状況がわかった。様々な話が聞けたこと。やっぱりムリだよーという視点ではなくどうやったらできるか？という視点を持った人がたくさんこの場所にいるとわかったこと。できる手立てが見つかりそうだなと思えたこと。【第2回】
- ・「今後どんな夜間中学を作ればよいのかということ」を議論し、具体的に動いていくぞ」という目標が明確になりました。【第2回】
- ・今、学校で取り組んでいることと共通することがありました。また、夜間中学の情報が初めてで、フリースクールを合わせて活動できる形を模索したいと思いました。【第2回】
- ・様々な立場にありながら、不登校の状況を改善したいという思いは一つであるということを実感できました。【第3回】
- ・小笠原さんのお話から、県内の現状を知ることができました。教育職に就きながら、知らないことがたくさんあり、自身の知識不足を感じ、今後も学んでいくモチベーションになりました。また、毎回ですが、様々な職種の方々とお話しでき、多様なアイデアなどを聞くことができ大変学びになります。【第3回】
- ・問題・目的分析チャートがとても分かりやすく勉強になった。校内に子どもが選んで通うことのできるスペースがあるのはとてもいいなと思ったが、そもそも校内に空き教室がないということもあるので、じゃあどうなればいいのかというところをもっと学校・地域を巻き込んで考えていくことが大切だと思う。子どもは未来の宝、青森の宝です。大切に慎重に真剣に考えていきたい。【第3回】
- ・教員の方、PTAの方などの声を聞くことができ、非常に参考になった。「学びの場」は教育を受けられる場であり、根本的には子どもたちが安心していられる「居場所」の問題なのだと思う。学校というイメージの固執が、まだまだ強く、社会的な意識改革が必要だ。【第3回】

◆今後の展開について

- ・現実には厳しい。しかし、できることはたくさんある。“金・人・時・場・法律”と様々なハードルをこえる知恵と工夫が必要と思う。ひねり出しましょう！子どもたちが幸せな人生を送れるように♪継続して、様々な形で連携することが大切だと思います。“子どもたちの未来は、大人が創る”ということをお忘れず、取り組みたいと思っております。
- ・講座で出た意見などが多くの方(特に県や教育委員会、管理職など)に伝わってほしいなと思います。小笠原さんのお話でもありましたが、「福祉と教育が連携」ということが本当に大切だと実感していますので、このような機会があれば積極的に参加したいです。
- ・例えば、2026年度開校(夜中)を前提に廃校活用を含め、具体的に語り、行動するための集まり(チーム)をつくりましょう。
- ・3回で終わるのではなく、もっと続けてもらい、実際に立ちあげまでやっていけるように続けてほしい(あくまでやって下さいではなくこの中でたちあがる人たちをつなげる場としてあり続けてほしい)。
- ・これからも定期的に開催してほしいです。

【第1回】



【第2回】



【第3回】

